

## 貝リンガル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R5-21号

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

## 【概況（9月26日 0時～9月27日 0時）】

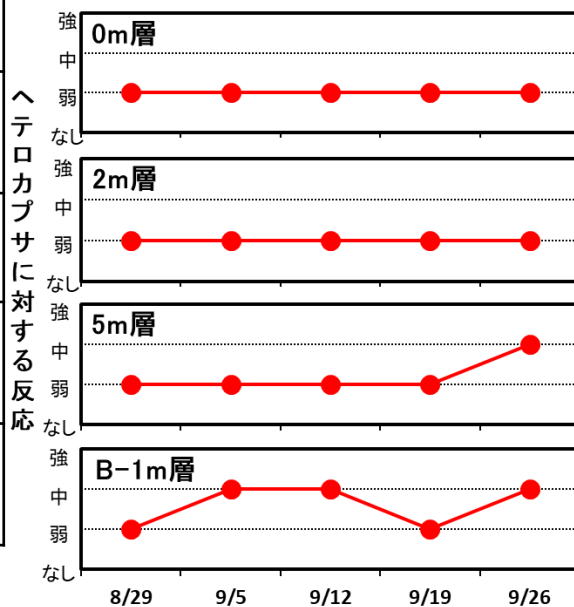
- 測定している4層でヘテロカプサに対する反応『弱』または『中』が確認されました。
- ヘテロカプサは、9月25日の立神浦赤崎における採水サンプル1mLあたり、0mで149細胞、2mで74細胞、5mで14細胞、B-1で4細胞が確認されました。
- 前回の報告以降、ヘテロカプサの反応は減少していましたが、9月24日以降、再び反応が多く見られます。

【おしらせ】次号は、10月4日（水）の予定です。

## 【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応※	備考
0m	弱 ※9/25には「中」がみられました	9/23(10-11, 12-13時), 24(7-9, 11-12, 13-20時), 25(6-19時), 26(7-11時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2m	弱 ※9/25には「中」がみられました	9/24(7-8, 13-17時), 25(8-19時), 26(7-15時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5m	中	9/24(4-5, 15-20時), 25(2-5, 13-21, 21-23時), 26(0-1, 4-16時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。
B-1m	中	9/23(16-17, 19-20時), 24(4-5, 15-16, 18-19時), 25(1-5, 14-22時), 26(0-1, 3-18時) にヘテロカプサに対する反応がみられました。

## 【直近の状況（5回分）】



※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。  
⇒ 極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。弱：スパイク波形の集中が時折みられる。  
⇒ 貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。中：連続的なスパイク波形がみられる。  
⇒ 強いストレスがあり、長く続くと衰弱・へい死の危険がある。

なし：応答なし ⇒ 影響なし。

## ●本紙について

- 英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リンガル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- 毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

## ●貝リンガルについて

- 二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- 英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

## ●センサーの設置場所と水深

- 湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

## ●利用上の注意点

- 海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- 本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

